

# 図書館だより

95. 12

Fairness : Fuji Academic Information Resources & Network Services System

## フェアネス ってなあに？

新しい図書館システムフェアネスの検索システムがいよいよ平成8年4月から公開されます。フェアネスの基本システムが完成することによって図書館は大きく変わります。それは、

1. 検索手段：検索はカード目録からオンライン検索端末へ
2. 検索語：カードの見出し語による検索から任意の検索語の入力へ
3. 作成目録：全国の大学との共同作成による目録を採用
4. 貸出方法：帯出者カードとポケットカードの記入方式から利用者IDカードによる自動貸出へ
5. 運用方法：本館・花川館のコンピュータが専用回線で接続

というように、検索から貸出に至るまで大きく5つの点にまとめられます。このような変化を充分知っていただくために、今回はその特徴をこのポイントに沿って具体的に紹介していきたいと思ひます。



### 目次

フェアネスってなあに？	.....	1
『夢見て迷える国』を思う その2	中野 茂	..... 6
図書館かわら版・冬休みの図書館	.....	8

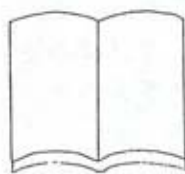
## 1. 検索手段の変化

フェアネスでは、資料の検索方法がカード目録から、オンラインによるデータベース検索に変わります。既に平成6年度から新着図書の情報にはカード目録には繰り込まれておらず、**図書データベース**というコンピュータ・ファイルに入力されています。このデータはこれまで利用者の皆さんには提供されていませんでしたが、カード目録の編成を中止した臨時措置として新着リストの形で出力していたことは前回(図書館だよりNo.46) ご紹介したとおりです。平成8(✓)

年4月からは和図書・洋図書・和雑誌・洋雑誌の4つのファイルを持つ図書データベースが公開されるわけです。これからは図書の検索はカードケースの前に立つのではなくコンピュータ(OPAC端末)の前に座ることになります。OPACはオンライン利用者用目録(Open Public Access Catalogue)のことです。いよいよ蓄積されたデータが公開され、オンラインで検索できるわけです。



目録カード



冊子体蔵書目録



OPAC 端末

## 2. 検索語の変化

カードによる検索は、書名・著者名や分類など限られた言葉でしかできません。フェアネスの検索では検索語の種類が大幅に広がります。資料同合わせ画面では、タイトルの一部を検索語として入力し検索ができます。さらに、ISBN番号、著者名、出版社名からも検索ができ、出版年なども検索語として組み合わせて使用できます。フェアネスの検索システムとカード目録(✓)

とのもうひとつの大きな違いは「書誌」と「所蔵」という2つのデータベースがあることです。書誌データベースはその資料そのものの情報で、所蔵データベースは本学図書館に置かれている状態(登録番号、請求記号、所蔵場所など)の情報です。従来のカード目録では、原則として1枚のカードで1冊の所蔵資料について見ることしかできませんでしたが、フェアネスではま

ず書誌データベースで検索が行われ、ヒットした図書の書誌についてその所蔵を見ることとなります。また、和図書・洋図書・和雑誌・洋雑誌の4つのファイルを同時に検索することも、1つだけを検索することもできます。(↗)

利用者同合わせ画面では、自分の借りている資料や返却日の確認などが行えます。このように、フェアネスでは、今まで以上に多角的なアクセスが可能となります。

資料同合わせ画面  
です。



### 3. 作成目録の変化

従来、目録の作成は各大学の図書館が独自に行ってきました。しかし文部省の共同利用機関である学術情報センターが設立され、既に大学330校をはじめ短大・高専、試験研究機関、県立図書館などあわせて400機関が参加し、図書館のネットワーク化が進んでいます。特に全国の大学が共同で目録を作成する共同分担目録の方式が各大学の図書館を大きく変えようとしています。これは図書や雑誌を最初に受け入れた大学がその書誌データを作り学術情報センターの共同目録に登録すると、あとの大学は自館の所

蔵記録だけを所蔵データとして登録するという方法です。この結果、目録情報の標準化が実現し、目録作成作業の省力化が図られました。本学図書館も平成6年度からこの事業に参加しています。ですから、受け入れている資料のほとんどが共同分担目録の中で作成され、図書データベースが作成されているわけです。このようにネットワーク型図書館では、作成された目録データは他の図書館と共有しながら、自館のファイルの独自性も加えることができるようになっています。

(↗)

#### 4. 貸出の方式

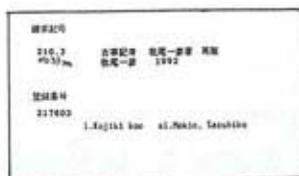
ここで今までの貸出方法を説明する必要はないと思いますが、「〇科〇年〇組〇番〇〇〇」とカウンターで声をかける学生の姿は本学ならではの光景です。この貸出方式はニューアーク式という20世紀初めに米国Newark公共図書館で始められた貸出方法に基づいています。本学の図書館でも開館以来この方式で貸出を行ってきたわけですが、IDカード（学生証が利用証となります）によって貸出を行うようになります。フェアネスでは、学生課などの協力を得て利用者のデータベースからIDカードを作成します。これにより利用者はカード記入の手間がなくな

り、学生証と図書に貼られたバーコードによって貸出手続きを行います。この結果、帯出者カードがカウンターからなくなり、利用者IDと貸出資料のバーコードをコンピュータで読み込み貸出管理を行います。またこのカードは本館と花川館で共通に使えますし、それぞれの校舎の学生が相手館の資料を検索したり貸出・予約をすることが今まで以上にスムーズに行えます。更に利用者問い合わせ画面では、自分の貸出や予約の状況を一覧で見て返却期限の確認をすることができますから、延滞なども未然に防ぐことができます。



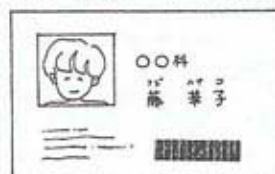
帯出者カード

+ 利用者が記入



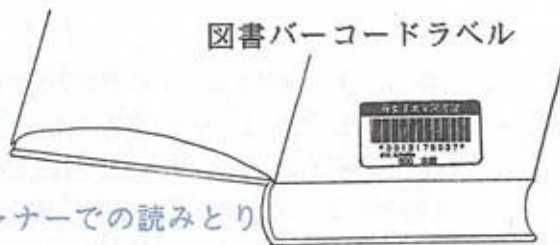
ポケットカード

利用者IDカード（学生証）



+

図書バーコードラベル



スキャナーでの読みとり

#### 5. 運用方法の変化

インターネットやLAN (Local Area Network) といったコンピュータ・ネットワークが社会の中で一般常識となりつつありますが、実は前回ご紹介したように、フェアネスもその一端を担っており、本館と花川館のコンピュータは各々

学内LANのケーブルによって結ばれていますし、両館がNTTの高速専用回線で結ばれています。これにより両館で一つのデータベースを共有し、最新の目録や受入の情報を両館の端末から同時に見ることができます。更にこのシス

テムは、北大大型計算機センターを通じて学情センターのインターネット・バックボーンである S I N E T に接続しています。将来は利用者自身がこのインターネット経由で国内の各大学・研究機関、国外の大学などと情報交換ができるようになります。

以上のように今回は、平成8年4月からサービスを始めるフェアネスの図書館サービスについてご紹介しました。豊富な本学の図書館資料が今まで以上に利用者の皆さんの身近なものとなるものと確信しております。

## 番外篇



### 緑の下の力もち



フェアネスのシステム導入により、貸出方式が変更されることはお知らせしたとおりですが、既に図書館の書架に並べられている図書全てにバーコードを貼付するという作業が必要です。昨年来、主に休暇中この作業を進めてきました。

夏季休暇中にお手伝いくださった学生さんのコメントをここに掲載します。

短英1年 福田 香織

私は今まで読むものと言えば雑誌ばかりで読書などという言葉からは非常にかけ離れた生活を送っていましたが、このバイトによって本に対する姿勢が大きく変えられたので、とても良かったと思っています。

短国2年 富田 佳江

今まであまり利用しなかった分野の本に接することができ、「こんな本があったのか」という驚きの連続でした。今後、図書館をより利用できる良い機会となり嬉しいです。

文英2年 高岡 理恵

普段の生活では味わえない特別な「いいこと」ばかりでした。このバイトをしなければ知り会えなかった人達や経験できなかったことを思うと、この偶然を嬉しく思います。

文英3年 田村 玲子

普段、手に取らない本に触れることができ、今まで無関心だったものに興味を持つきっかけを与えていただいたと思います。また、以前より本が好きになりました。

## 「夢見て迷える国」を思う その2

保育科：発達心理学 中野 茂

昨年度のイギリス・エディンバラでの生活体験の続編を記すことになった。というのは、前回は、出発からエディンバラ到着までで、与えられた紙面が終わってしまい、担当者に「次号に続きを」と言われ、性懲りもなく引き受けることとなった。

さて、今回は、忘れられない二つの出来事を記すことにしよう。一つは、確か滞在二か月目のことである。エディンバラ大学の中央図書館から製本された分厚い雑誌を借りてきて、その中の論文の一つをコピーしようと心理学科のコピー機にかけた。けれども、ぶ厚過ぎて背が十分に開かず、真中付近の文字が歪み、光も入って黒くなってしまふ。そこで、本がいっぱい開くようにカバーを力いっぱい押し下げた。その瞬間、何と「グシャン！」と鈍い音をたててコピー機のガラスが割れてしまった。

これには、心底から狼狽をしてしまった。まだ、異国で暮らし始めたばかりで自分の意志を英語で伝えられるどころでない時に、人様の大切なものを壊してしまったのだから。幸いにも学科長が、たまたま、コピー室に一緒にいて事の経緯を事務技師に伝えてくれた。その技師からは、「おまえ、空手でもやるのか」と呆れられたが、修理費の半分を校費で持つという寛大な処置で解決してくれた。

とはいっても、約1万5千円の請求書を受け

取った時には、『イギリスのコピー機は、かくも壊れ易いものなのか!』と落胆した。この話を聞いた日本人の友人達は皆、「エエッ!、そんなこと日本じゃ聞いたこと無いよ、最初からどこかにひびが入っていたんだよ」などと、慰めてくれた。ただ、私の娘だけは、「お父さん、体重かけたでしょう。オーバーウェイトだったんじゃないの?」と手厳しかった……。



エディンバラの中心街を歩く

もう一つ忘れられないのは、私や家族のお世話をしてくださったトレヴァーセン教授の御厚意である。先生は、郊外の自然豊かな海岸に面した静かな村に住んでいて、何かの機会毎に私や家族を自宅に招いてくださった。3月半ばに私の家族が、一足早く帰国することになった時も、自宅での送別のパーティを約束してくれた。

ところが、2月下旬から3月初めに奥様が風邪で体調を崩され、とうとう、約束を果たせる週末は残りの1回だけになってしまった。しかも、その週半ば、教授御自身も減多にないことに風邪と疲労で寝込み、ついに医師の往診を受けるほどの状態になってしまった。それでも、私に「なーに、週末までには治るから、是非おいで」と電話をくれた。

しかし、奥様や周囲の人は60余歳の彼の健康を気遣い、この際ゆっくり休養をしたらと勧めた。私も奥様に「既に十分お世話になったので、この際、週末はのんびりするよう伝えてください。」と話したところ、「そう言うよ、『もう決めたことだ』と言って、子供のようにすねてしまう。」と言う。かくして、約束の日曜日のお昼、私達一家は、教授が料理してくださったスコティッシュ・サーモンのムニエルに頭



が下がる思いで舌鼓を打つことができた。

トレヴァーセン教授の頑固と言えほどの思いやりの強さ、いつも私達に向けてくれた暖かい笑顔は、今も私の心の中に残っている。学生と講義で向かいあう時、私はその笑顔を思い出すようにしている。ただ、留まることを知らない講義中のおしゃべりには、それさえ吹き飛ばしてしまうこともある。

さて、原稿用紙の余白も尽きてきたので『夢みて迷える国』をタイトルとした訳を述べて終わりにしたい。

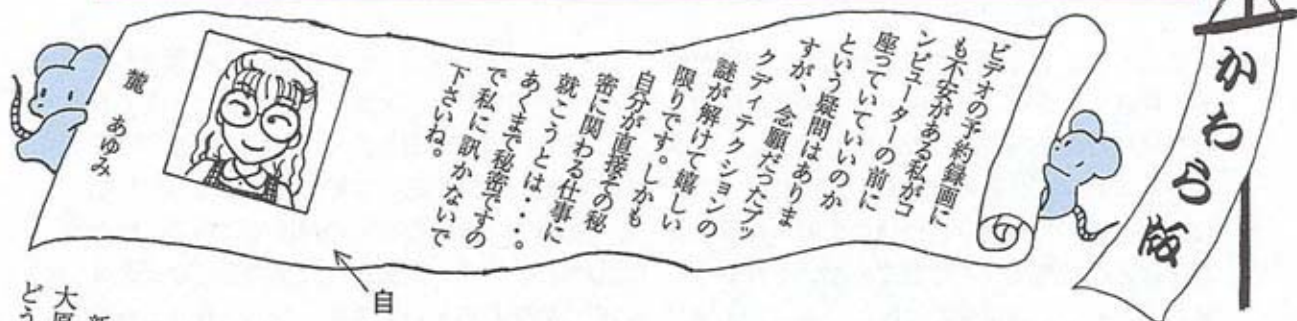
イギリスのゆったりとした石造りの家々も町並みも、緑豊かな広大な公園も、実はビクトリア朝時代、大英帝国と言われた頃の遺産である。言わば親の遺産で暮らしているようなものである。そこで、新たな雇用の創出によって、いかにして終わらない不況から脱出できるかが最大の現代的関心事といえる。しかし、NECがグラスゴー工場を建てた時には、メジャー首相が直々に録入れをした一方で、韓国の電気メーカーが進出した時には哀楽混在の衝撃をもって迎えられた。まさに、その姿は過去の栄光にすがって、ヨーロッパの片隅で落ちぶれていく現実を憂いているようにさえ見えた。

一方、明治から「脱亜入欧」を唱えてきた日本も、ヨーロッパで見ている限り「入欧米」どころか、アジア諸国からもそっぽを向かれているように見える。例えば、イギリス人の身の回りには日本の電気製品が溢れているのに、マスコミで日本に関心を向けるのは経済新聞くらいで、むしろ、アジア諸国の日本批判の方が記事になる。しかも、驚くことに、イギリスを代表する新聞「タイムズ」は、東京特派員を置いていない（昨夏の時点で）と言う。

日本がオーストラリアの隣にあると言ったロンドンの大学生に日本人の「売春」をどう思うか、と聞かれた時には嘆息が出てしまった。日英両国とも、そろそろ夢からさめて現実を見つめる時に来ているのではないだろうか。

<訂正>

前号の表紙写真はスコットランドの国旗でした。



ビデオの予約録画にも不安がある私が「座っていていいのかわらぬ海」という疑問はありますが、念願だったアップグレードテクニシヨンの謎が解けて嬉しい限りです。しかも自分が直接その秘密に関わる仕事に就こうとは...。あ〜まで秘密です。で私に訊かないで下さいね。

自筆



図書館のお仕事を始めてから11月に日本文学の地域では私は今も他所者で、知人は清水義範氏よりおらず、他の方とお近づきになる機会はまたない。そんな私を隣人のイエイツが

はげます。何はともあれ、ケネス・ブラナーの『オセロ』が楽しみです。

新しいスタッフです。大原さんは貸出カウンターで働いています。どうぞ、よろしくお願いします。

### 冬休みの図書館

期間	12月16日(土) - 1月13日(土)
開館時間	月一金 9:30-16:00 土 9:30-12:30
休館日	12月25日(月) - 1月9日(火)
長期貸出	12月9日(土)より開始します。返却は1月16日(火)以降とします。
貸出冊数	12月16日(土)からはひとり10冊までです。

詳しくは掲示板・配布資料をご覧ください。



藤女子大学  
藤女子短期大学 図書館だより

第48号 1995.12

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館  
TEL 011-736-5405 FAX 011-709-4770